

## 裏筑波山山行報告

【山行日】2023年4月22(日) 晴れ

【集 合】鹿窪運動公園P AM 8:00

【費 用】マイカー2台 : 500円

【メンバー】CL:鈴木、SL:大西、青柳、飯口、飯野、大塚、嶋田、島田、清水、関、並木、廣瀬、藤原ト、藤原フ

【コースタイム】鹿窪運動公園P8:00＝筑波高原キャンプ場 P8:40/9:00～旧ユース hostel 9:30～御幸ヶ原 10:00～自然研究路分岐 10:30～男体山 10:45/11:00～御幸ヶ原 11:20～カタクリ園地ベンチ 11:30/12:00～女体山 12:20/12:30～筑波高原キャンプ場 13:20/13:30＝鹿窪運動公園P14:20

ニリンソウの花を見たいと筑波山裏コースのリクエストがあり、花の時期に合わせて計画した。鹿窪運動公園を8時に出発し、男の川登山口を確認すると「通行禁止の」札が下げられていた。



このコースはカタクリやニリンソウの花が多く人気のコースだが、愛好家が勝手に作った登山道の為登山禁止としたようだ。筑波高原キャンプ場に車を止め、トイレを済ませストレッチを済ませて出発する。ニリンソウの花が見頃のように、多くの登山者とすれ違う。我々と逆コースで登るようで、夫婦の方から「どちらから登りますか？」と聞かれ「男の川コースの予定だったが、登山禁止なのでユース hostel 跡から登ります。」と答えると、「登山禁止になっているが、皆さん登って

いますから大丈夫ですよ」と言われたが、会山行なので登山禁止のコースは登れない。旧ユース hostel 入口から登山道に入ると、広い登山道は整備されコンクリートの舗装道になっていた。あまりに整備されていて、皆さん不満そうに歩いていた。御幸ヶ原の下まで登ると黄色い花が沢山咲いており、後で調べるとクサノオウと言う花のようだ。御幸ヶ原でトイレを済ませ男体山に向かうが、あまりに殺風景な登山道を登って来たので、自然研究路を經由して男体山に向かうことにした。これが大正解で自然研究路に入るとニリンソウやトウゴクミツバツツジの花が見頃で、皆さんに笑顔が戻って来た。特にニリンソウの花は見事で、皆さんが「凄～い、綺麗」と喜んでいました。





途中の展望岩分岐でSLが「健脚者は展望岩に行けば」と言うと、皆さんそれとばかりに展望岩に殺到する。展望岩の周りにはトウゴクミツバツツジが群生し、展望も良いので皆さん大満足の様子。



分岐の先で左に急坂を登り、大きな岩の間を抜けると男体山山頂に着く。山頂で記念写真を撮り、展望を楽しんだら御幸ヶ原へ向かう。ここからは大勢の登山者が登って来るので、すれ違いに時間が掛かる。御幸ヶ原に戻ると登山者で溢れており、急いでカタクリ園地脇のベンチに向かう。ベンチにも先客が居て、手前のベンチや周りの草地にビニールシートを敷き昼食をいただく。コロッケや春雨サラダ、キンピラ等々が皿に盛られ、おにぎりやお稲荷さんと一緒に美味しくいただ

いた。筑波山は火気使用禁止なのでお湯を沸かせず、食後のお茶も各自持参したものを飲む。ランチが済んだらもう一つのピーク女体山に向かうが、登山道は人で溢れすれ違うのも大変な状況になっていた。ようやく女体山山頂に着くが、ここも大勢の登山者で溢れ、記念写真を撮るのも一苦

労。頂上の岩場も順番待ちで、岩に不慣れた人は中々降りられない。山頂の岩場で眺望を楽しんだら下山開始し、下山は筑波高原キャンプ場コースを下って行く。このコースはカタクリなどの花が見られる自然豊かなコースだが、カタクリはすでに終わっておりユキザサやエイザンスミレの花が目を楽しませてくれる。自然林の気持が良い登山道を下ると、キャンプ場の中に降りて行きニリンソウの花が見られるようになる。キャンプ場の中に付けられた道を下るとトイレ脇に出



て、すぐ先の駐車場に着いた。靴を履き替えたら車に乗り、鹿窪運動公園に向かう。明日も足尾植樹祭があるので何処にも寄らず、鹿窪運動公園に予定より早く帰着した。